

【テーマ1 資金】

チーム（テーブル）	A	B	E
解決しようとしている課題	<p><b>（取り組みたい事業につながったもの）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集客を増やし、参加者に楽しんでもらうにはどうすればよいか</li> <li>・自主財源確立方法を探る</li> </ul> <p><b>（その他）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付サイト、寄付月間</li> <li>・助成金の活用方法</li> <li>・クラウドファンディングの活用</li> <li>・会員の集め方</li> </ul>	<p><b>（取り組みたい事業につながったもの）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資金調達の方法</li> </ul> <p><b>（その他）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付を集める</li> <li>・活動費の確保</li> <li>・NPOや団体の給与だけで生計が立てられるようにしたい</li> <li>・会を運営するための収益事業</li> </ul>	<p><b>（取り組みたい事業につながったもの）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地支援活動を継続的に行うための資金（助成金など）確保</li> <li>・行政の補助金を使いやすいものにする</li> </ul> <p><b>（その他）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加費増に対する参加者側の理解</li> <li>・世代間交流の進め方</li> <li>・補助金のあり方に疑問がある</li> <li>・資金調達の成功事例を聞きたい</li> </ul>
課題の解決に役立つ制度など	<p><b>（提供資料）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非営利組織の資金調達方法－会費・寄付、助成・委託、自主財源、</li> <li>・寄付月間について</li> <li>・クラウドファンディング</li> <li>・助成金情報サイト</li> </ul>	同左	同左
課題解決後の目指す姿・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体同士で協力し合う</li> <li>・人脈を大切にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「活動の認知度UP→共感を得る→資金が集まる」という仕組みづくり</li> </ul>	
取り組みたい事業のアイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会の開催</li> <li>・実践を続ける</li> <li>・積極的に県外に出て交流する</li> <li>・ビジネスマッチング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業、補助金（自治体、民間）、クラウドファンディング 等を組み合わせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度設計への参加</li> <li>・支援総予算の増加</li> <li>・地域の為になる資金</li> <li>・民間活動への適格な資金支援</li> <li>・起業に対する支援の強化</li> <li>・行政以外の資金支援の方策</li> </ul>

【テーマ2 人材】

チーム(テーブル)	F	G
<b>解決しようとしている課題</b>	(グループで絞り込んだテーマ) ・いかに人材を確保するか。 (その他) ・会員を増やす ・事業に携わるスタッフの確保 ・学生から社会人になる際の教育 ・5～10年後も今と同じようにボランティアを確保する。	(グループで絞り込んだテーマ) ・後継者の世代交代のための人材育成(地域のリーダー、専門的な人材、若い人の当事者意識) (その他) ・まちづくり協議会での輪番制による各部長の確保と継続 ・活動への理解と一緒に推進してくれる人、自分ごとに考えられる人との 出会い ・年齢に関係ないリーダーの育成 ・継続性のある事業の体制づくり
<b>課題の解決に役立つ制度など</b>	(資料提供) ・平成23年社会生活基本調査(ボランティアに関するデータ) ・ボランティアのキー概念、種類と方法(大阪ボランティア協会編テキスト「市民活動論」参照) ・プロボノ、リノベーションなど若い世代のボランティア参加の事例 (事例を受けて、参加者から) ・三八市(松崎)のメンバーON I Y O M E 5の活動紹介	(提供資料) ・平成23年社会生活基本調査(ボランティアに関するデータ) ・ボランティアのキー概念、種類と方法(大阪ボランティア協会編テキスト「市民活動論」参照) ・「プロボノ」(活性センター事業)
<b>課題解決後の目指す姿・目標</b>	・若者(学生)が生活できる収益性のある事業 ・若者だけでなく、中高年ボランティアの確保および有償ボランティアの拡充 ・楽しさ、やりがいのある事業	デザイン+ストーリー+コンセプト

<b>取り組みたい事業のアイデア</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ONIYOME 5の活動のように、楽しい雰囲気は参加者に伝わり、地域の人にも楽しくなれる。更にはメンバーの活動の継続にもつながる。事業の内容にもよるが、『楽しさ』を意識した企画・運営を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心の通じる仲間・ファンを増やせる楽しいイベントでのコミュニティづくりを心がける。達成感を体験してもらうことが大切。</li> <li>・ 活動に参加するしくみを作り、個別に対応することで、伝える力を育成していく。</li> <li>・ メディアと上手に付き合いながら、見える化・情報提供をしていく。</li> </ul>
----------------------	---	---

【テーマ3 情報発信・共有】

チーム（テーブル）	I	J
<b>解決しようとしている課題</b>	<p>（取り組みたい事業につながったもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の共有化、発信（ポータルサイト）</li> <li>・ 発信方法</li> <li>・ 宣伝・発信</li> <li>・ 情報提供はメール？郵便？頻度は？</li> <li>・ 参加者の増やし方</li> </ul> <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ内のメンバーの高齢化</li> <li>・ 次期リーダーをどうするか</li> <li>・ 資金調達</li> <li>・ 情報提供はメール？郵便？頻度は？</li> </ul>	<p>（取り組みたい事業につながったもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低予算で、効果・効率の良い情報発信の方法。</li> <li>・ 十分検討を重ね、企画・実行するが、参加者が少ない。周知不足が課題。</li> <li>・ 参加者をどう募るのか。</li> </ul> <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体が共同・合同で集まるためには。</li> <li>・ 団体の仲間を増やし連携していきたい。</li> <li>・ 共通した目的を持った団体が分からない。</li> <li>・ メディアへの取りあげがもっと欲しい。</li> <li>・ 各団体の活動を知りたい。</li> <li>・ どんな団体があるのか。</li> <li>・ 情報に興味を持ってもらえる発信の仕方。</li> <li>・ どのように婚活イベントを知ってもらうかの手段・方法。</li> </ul>
<b>課題の解決に役立つ制度など</b>	<p>【とっとり県民活動活性化センターでお手伝いできこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールマガジンによる情報発信（センター・元気づくり）</li> <li>・ センターホームページ（鳥取力やボランとり）への</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS・チラシ・パンフレット・HP等の活用、口コミ、地域活動への参加</li> <li>→活動を知ってもらう</li> <li>【とっとり県民活動活性化センターでお手伝いできこと】</li> <li>・ メールマガジンによる情報発信（センター・元気づくり）</li> </ul>

	<p>掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターが定期的に発行している情報誌、機関紙への掲載</li> <li>・フェイスブックでの情報発信 など</li> </ul> <p>【民間による情報発信サポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イーパーツリユース PC 寄贈プログラム</li> <li>・マイクロソフトなどのソフトウェア寄贈プログラム「テックスープ」など</li> <li>・「CANPAN トピックス」イベント告知 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターホームページ（鳥取力やボランとり）への掲載</li> <li>・センターが定期的に発行している情報誌、機関紙への掲載</li> <li>・フェイスブックでの情報発信 など</li> </ul> <p>【民間による情報発信サポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イーパーツリユース PC 寄贈プログラム</li> <li>・マイクロソフトなどのソフトウェア寄贈プログラム「テックスープ」など</li> <li>・「CANPAN トピックス」イベント告知 など</li> </ul>
課題解決後の目指す姿・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも見られる、情報を多くのひとと共有できる</li> <li>・情報を受け取るだけでなく、発信できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体同士で情報発信をし合う（補完する）</li> <li>・イベントの告知なども単体の団体で行うのではなく、例えば、ある団体がイベントの告知⇒その情報を他の団体がシェア⇒情報発信の輪を広げていく</li> </ul>
取り組みたい事業のアイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益のあるポータルサイトの作成</li> </ul> <p>行政が運営するホームページ（鳥取力サイト等）は利益追求ではないため、できることが限られる。収益を生み出す形で、継続的に情報共有、発信できるポータルサイトを作ってはどうか。例えば、この元気づくり会議の賛同者による「元気づくりページ（サイト）」を立ち上げる等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS の利用（いいね！やリツイートを必ずする等のルールを作る）</li> <li>・他団体や行政との連携により、アイデアを出し合う</li> <li>・補助金や障害者の作業所を活用してパンフレットづくり</li> </ul>

#### 【テーマ4 地域】

チーム（テーブル）	C	D	H
解決しようとしている課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に関わる住民の減少</li> <li>・地域に対しての当事者意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用の創出</li> <li>・経済活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と地域の交流（交流人口を増やす）</li> </ul>
課題の解決に	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とっとり集落創造シートなどを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山、里海を地域資源として捉え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とっとり集落創造シートなどを活用</li> </ul>

役立つ制度など	活用し、実際に地域に当て込んで考えてみる ・地域円卓会議	再生させると同時に教育にも力を入れる	し 地域の将来を予測し、住民で共有 ・他地域との交流、学び合い
課題解決後の目指す姿・目標	・地域の大人たちが地域の子どもの「心」を育てる	・新規産業を創出する ・新技術の開発、普及	・これまでの延長での考えや動きではなく、 地域の将来を予測、共有し、前向きに やれることから実践していく
取り組みたい事業のアイデア			

【テーマ5 協働】

チーム（テーブル）	K	L
解決しようとしている課題	（取り組みたい事業につながったもの） ・農業の振興 ・食糧自給率100%を目指して （その他） ・若者や女性が生き生きと活動出来る ・女性の団体として他団体と交流をしたい ・クリエイティブな起業・事業が出来る ・各々の団体が求めている内容が分かった上でマッチング ・地域・行政・団体が協働した地域活性化 ・男性高齢者の認知症意識不足	（取り組みたい事業につながったもの） ・団体のつながりを作り、情報を発信・共有するためにはどうすれば良いか。 （その他） ・協働の方式 この指たかれ方式で実行 ・他団体（特に食）と協力してイベントをしたい ・年間通じて活動をし、知ってもらいたい ・実行委員・ボランティアを増やしたい ・各団体活動を（協働など）ネットワーク化 いろいろとつながりたい ・団体と行政との連携 ・どうしたら「とっとり」が独立できるか ・周辺の住民を巻き込んだ活動をしたい
課題の解決に	（提供資料）	同左

<b>役立つ制度など</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県協働提案・連携推進事業</li> <li>・鳥取力をみんなでつくりあげるためのガイドライン</li> <li>・日本パートナーシップ大賞 (（特非）パートナーシップ・サポートセンター他)</li> <li>・「SAVE JAPAN プロジェクト」 (損保ジャパン日本興亜 (株))</li> </ul>	
<b>課題解決後の 目指す姿・目標</b>	<p>若者を農業従事者に (跡継ぎ不足による耕作放棄地が増加している中、いかに若者に農業に興味を持ってもらうかが課題)</p>	<p>各種団体をつなげる情報コントロールセンターの設立</p>
<b>取り組みたい 事業のアイデア</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間的な制約から解決のための具体的な糸口を導き出すことは出来なかった。</li> <li>・課題解決のために個人の動きには限界があるため、組織として動くことが必要になる。団体として動きが生まれることが大切。</li> <li>・農業の衰退は公的課題の一つであり、行政も否応なしに付き合っていかなければならない。団体が生まれたら、行政と民間の協働が生まれることが期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア企業の活用</li> <li>・団体の取組みの透明化</li> </ul>